京大広報

号外　2008. 4

目次

〈卒業式・学位授与式〉
卒業式における総長のことば……2576
修士学位・修士（専門職）学位・法務博士（専門職）学位授与式における総長のことば……2578
博士学位授与式における総長のことば……2581

〈大学の動き〉
平成19年度卒業式……2583
平成19年度修士学位・修士（専門職）学位・法務博士（専門職）学位授与式……2584
博士学位授与式……2584

平成19年度　卒業式

京都大学広報センター
http://www.kyoto-u.ac.jp/

卒業式・学位授与式

卒業式における総長のことば

平成20年３月25日

総長　尾　池　和　夫

本日，卒業される，2,777名の皆さん，ご卒業おめでとうございます。ご来賓の名誉教授，ご列席の副学長，学部長，部局長とともに，皆さんのご卒業を心からお祝いいたします。あわせてご家族の皆様にも，こころからお慶び申し上げます。

京都帝国大学の第１回の卒業式は，1900年（明治33年）７月14日でした。土木工学の18名，機械工学の11名の計29名の卒業生で，文部大臣も列席する式典でした。1897年に創立の時の学生は47名でしたので，かなり少ない卒業生の数です。卒業証書授与式の木下廣次総長の式辞に「諸般の設備未だ其の半に達せず，学芸の教授に於て不便を感ぜしこと頗る多かりしに」とあるように，当初から大学の経営は困難な状況にあったことを見ることができます。

京都大学を卒業した方たちは世界の各地で，また日本の各地で活躍しておられます。本日卒業される皆さんを含めて，京都大学の111年の歴史の中で，卒業生の累計は17万9,667名になります。世界のさまざまの場所で，京都大学を卒業して社会人として活躍し，あるいは大学院生として研究を続ける人たちに会います。この数年，私自身が出会った人たちを思い起こしただけでも，ラオスとの国境に近いベトナムの村で，大震災の後のインドネシアの村で，ボストンの町で，サウジアラビアの大学で，北海道の研究林や屋久島の観察ステーションで，また官庁や国会など，至る所に卒業生がいて，しかも活動の中心メンバーとして，あるいは教員やボランティアとして活躍しておられます。また，多くの地域で京都大学の同窓会支部を新しく組織して集まっていただきました。今日卒業の皆さんもぜひ同窓会などに積極的に参加していただきたいと思います。

皆さんの中には，2004年に入学した方も多いと思います。その年の入学式で私はいくつかのことを話しました。学問の自由ということ，人権を守るということ，地球と人の共存を生き方の基本とするということなどでした。

京都大学は，その基本理念の前文に，「創立以来築いてきた自由の学風を継承し，発展させつつ，多元的な課題の解決に挑戦し，地球社会の調和ある共存に貢献するため，自由と調和を基礎に，ここに基本理念を定める」と書き込みました。また，その教育の項には「対話を根幹として自学自習を促し，卓越した知の継承と創造的精神の涵養につとめる」とあり，「地球社会の調和ある共存に寄与する，優れた研究者と高度の専門能力をもつ人材を育成する」とあります。その教育の成果を皆さんの一人ひとりが身につけて今日卒業されます。

もともと西洋で言うeducationという言葉は「本来持っている才能を引き出す」という意味を持つ言葉で，これが京都大学の自学自習の精神です。京都大学での経験がこれからの皆さんの，あらゆる種類の活躍の場で，間違いなく威力を発揮します。基本理念では「自学自習」という言葉の前に「対話を根幹として」とあるのを忘れないでほしいと思います。

昨年10月，京都大学は『京都大学講義「偏見・差別・人権」を問い直す』という本を京都大学学術出版会から刊行しました。この出版の意図は，1994年から全学共通科目として「偏見・差別・人権」講義を開設したり，さまざまの努力にもかかわらず，人権を無視する事件があり，科目担当者も自らが見直す過程を赤裸々に示して読者に問うという意図で生まれた本です。大学の手探りの試みとして広く批判を仰ぐものです。

また，「地球社会の調和ある共存」ということを，皆さんにも卒業にあたってあらためて考えていただきたいと思います。そして，皆さんの一人ひとりが

これからどのような道を歩こうとしておられるにしても，これを今後とも考えながら進んでほしいと思います。

先日，私は野生動物を研究する人たちのご案内で，屋久島の周囲100kmの海岸を廻ってきました。かつて，野生のサルを研究しようという学者たちがこの島を訪れたのは，1952年で，幸島でニホンザルが最初に餌付けされるよりも前でした。川村俊蔵と伊谷純一郎は，この年６月22日の早朝に安房の港へ上陸し，下屋久営林署を訪ねた後，島を一周し，宮之浦岳，永田岳に登頂して，７月12日に再び安房港より出帆しました。「京都大学霊長類研究グループ」の活動の一環でした。

屋久島は日本に三つある世界自然遺産の一つです。1993年12月に屋久島と白神山地が日本で初めて世界自然遺産として登録され，2005年７月には３番目の世界自然遺産として知床が登録されました。

広大なアジアモンスーン域の中にあって，屋久島は冬の北西モンスーンと夏の南東モンスーンの影響を受ける気候下にあり，雨の多い年には年間10,000mmを超える降水量が観測されます。広い範囲に屋久島花崗岩が分布し，南西諸島の中で島の大部分を花崗岩が占めているのは屋久島だけという特徴があります。屋久島には，京都大学霊長類研究所附属ニホンザル野外観察施設屋久島観察ステーションという研究施設があります。屋久島はニホンザル分布の南限で，海岸の照葉樹林から九州の最高峰にまでサルが分布しているという島です。私が訪れたときにも北海道大学，神戸大学，奈良教育大学などからも，研究者や学生たちが来て，８人の研究者たちが，この観察ステーションを拠点にして島の中でフィールドワークに従事していました。

京都大学では今年４月に野生動物研究センターが新しく教育，研究，社会貢献の活動を開始します。皆さんが京都大学に在学して急速に成長を遂げて今日の卒業式を迎えたと同じように，京都大学も皆さんの在学中に，どんどん成長し発展しました。昨年には，「こころの未来研究センター」が設置され，世界トップレベル研究拠点として「物質－細胞統合システム拠点」が発足し，さらに今年１月22日になってその拠点の中に「iPS細胞研究センター」が設置されました。

このように京都大学は常に世界の先端を行く学問領域を開拓しながら，そこを拠点として知を創造し，知を蓄積，継承し，それを社会に届けます。皆さんも卒業して社会に出て企業で活躍し，ボランティアで活動し，あるいは起業して独立し，というように，さまざまの方向を目指していることでしょう。さらに学問の世界に進む方も多いと思います。

やはり４年前の入学式で，「４年後に京都大学学士，６年後に京都大学修士，９年後に京都大学博士という学位が授与されます。長いようですが，一所懸命学習や研究をしていると，あっという間に経ってしまう９年です」と話しました。４年前は，国立大学が法人化して新しい仕組みが始まったときでした。そのときに心配した以上に日本の大学教育の体制は今，危機に瀕しています。法人化する準備のときには予定されていなかった授業料の値上げが，まず皆さんの負担として持ち込まれたことを忘れることができません。

京都大学では，学部学生にも大学院の学生にも，すでに可能な限り多くの方策を用意して授業料の軽減や生活費の支援を実行しています。まだ決して十分とは思っていませんので，今後とも学生支援を充実する努力を継続的に重ねていきます。今日の卒業生の中には，京都大学大学院に進学する方もいるでしょう。京都大学では大学院でも多くの方法で学費を支援するよう用意してあります。とくに博士後期課程では，世界の将来を担う人材に，安心して研究に従事できるよう，私は本来優秀な学生全員に給料を支払うべきだと主張しています。事実，京都大学では多くの大学院生にさまざまの仕組みで給料を支給し，また今年からはその単価を上げることも可能となるよう制度と財源の検討を進めました。

何よりも大きな日本の課題は，大学院に進学した学生の熱意に応じて，学習と研究に励んだ結果に，十分報いるだけの社会の仕組みが未熟だということです。もっとも重要な点を例としてあげますと，大学院を出て博士学位を授与された重要な人材を採用して，本来の力を発揮してもらうための場所が十分用意されていないということです。日本の企業は優秀な人材を無駄にしないように，もっと博士を採用

する努力をしなければなりません。

京都大学は，この根本的な課題の解決を目指して，まず京都大学自身の努力で，若い研究者のポストを増やす方策を具体的に検討するよう，京都大学の緊急課題として決意しました。若い研究者が給料を得て研究に取り組むことができるように，大学をあげて研究職のポストを増やすことを役員全員が最重点課題として取り組むよう決意しました。

奨学金，授業料免除，RA，TA，OAなどの仕事の提供，その他のさまざまの支援策はすでにかなり実行しています。それらの制度は，時々刻々と整備してきたために，たいへん複雑になっていて，必ずしも十分に利用されていません。まず，その支援の仕組みをわかるように示します。しかし，どのような支援をしても，それは在学中の支援であり，せっかく博士学位を得て本格的に研究に専念しようとしても，生活の基盤がしっかりと用意できなければ，安心して研究に取り組むことができません。今日卒業する皆さんの中から博士が生まれる頃には，しっかりとその努力の成果を受け止める大学となるよう努力を続けたいと思っています。

卒業して社会で活躍される方々には，さまざまの場所で，京都大学で身につけた自学自習の精神を活かして活躍しつつ，皆さんの母校である京都大学で学問を続ける研究者たちの応援もお願いします。引き続き大学で研究を続ける方々には，優秀な人材を活かす大学であるよう，大学とともに知恵を絞りながら，研究の道に力強く進んでほしいと思います。

今後とも，からだとこころの健康を大切にして，ご活躍されることを願って，京都大学学士の学位を得られた皆さんへの私のお祝いの言葉といたします。

ご卒業まことにおめでとうございます。

修士学位・修士（専門職）学位・法務博士（専門職）学位授与式における総長のことば

平成20年３月24日

総長　尾　池　和　夫

本日，京都大学修士の学位を得られた2,147名の皆さん，修士（専門職）の学位を得られた127名の皆さん，法務博士（専門職）の学位を得られた190名の皆さん，まことにおめでとうございます。ご来賓の沢田敏男元総長，長尾真前総長，名誉教授，ご列席の副学長，研究科長，学舎長，教育部長，研究所長とともに，皆さんの学位を心からお祝い申し上げます。

本日で，京都大学が授与した修士の累計は５万6,967名，修士（専門職）の累計は200名，法務博士（専門職）の累計は514名になりました。公共政策修士（専門職）及び経営学修士（専門職）の学位は今回が初めてです。また，本日のこの学位授与式では，553名の女性が含まれていますが，私はもっともっと多くの女性にこの学位も取得してほしいと願って，今後とも京都大学の女性の教職員と学生支援の仕組みを整備していく所存です。

今日の学位を得られた皆さんのこれからの人生には，21世紀の多くの困難な課題があります。地球の将来を子孫のために考え，多様な文化の中の共存を考えるために，皆さんが得られた学位を活かしてほしいと思います。

京都大学は昨年４月，新しく，こころの未来研究センターを設置しました。センター長の吉川左紀子

教授は，異なる学問領域の研究者が集い，こころに関する学際研究を推進する，他に類をみないユニークな研究組織と言っておられます。こころのうちに生まれる未来の時間，成長するこころが生きる未来社会という二つの時の概念が織り込まれていると言われました。京都大学は，今日ご列席の長尾前総長の提唱のもとに，京都府，稲盛財団とともに，５年にわたって京都文化会議を開催しました。その議論の中から，こころの未来研究センターが生まれました。茶の湯のこころとか，焼き物のこころ，というように日本人は物にこころを求めます。また，美しいこころとか，学問するこころというように，こころの状態を連体形で表現します。この日本のこころは英語でもKOKOROと表現されるグローバルな概念になっていると私は思っています。

京都大学では今年４月，野生動物研究センターを設立します。日本のヒト科４属の中で，今ゴリラが最も少子高齢化の厳しい問題を抱えています。それらの野生動物のことを知るのは新しい学問の分野として取り組んでいかなければなりません。ヒトのこどものことも考えていなければなりません。世界には人口の急速に増えている地域もあれば，減り始めた地域もあります。皆さんにも，さまざまの目で，こどものことを考えてほしいと思います。この研究センターでは，大学と連携した動物園に，博士学位を持つ研究者が常駐して，野生動物の研究の現場をこどもたちに見てもらうことを計画しています。これは地球社会の調和ある共存をこどもたちに考えてほしいという意味でもあり，博士学位を取得した研究者を採用するポストが，日本の社会のさまざまの組織の中にあって当然だという私のメッセージでもあります。

野生動物と人のことを考えると，どうしても道具とことばのことを考えなければなりません。京都大学には，さまざまの学問の分野があります。ことばのことを考える分野もあり，文字のことを知る分野もあります。とくに漢字に関しては先端的な研究が行われています。

こころも，こどもも，ことばも，どれも時とともに育っていくものです。私たちは幼児の時から，ことばを覚え，ことばで考え，ことばで記憶し，ことばで新しい概念を生み出し，ことばでそれを伝えます。親から子へ，教員から生徒へ，先輩から後輩へと，ことばで知を伝えます。そして創造の世界を構成します。

京都大学は，創造性に富む人たちが構成する大学で，知を継承し，知を創造し，知を蓄積し，知を実践し，知を伝承します。それが京都大学の教育，研究，社会貢献の基本です。

今日の皆さんの修士論文を「こころ」「こども」「ことば」というキーワードで見ても，実に多くの論文で，それらがさまざまの視点から研究され論じられていることがわかります。少しだけ例を並べてみます。

文学研究科の太田紘史さんの「心の自然化戦略を再構築する」，矢追健さんの「自己に関わる情報の処理とその脳内神経基盤」，鄭詩妲（テイシコウ）さんの「日本と台湾の広告における文化価値観及び家族像－保険テレビコマーシャルの国際比較から－」。

教育学研究科の須賀みな子さんの「言語と生命－野村芳兵衛の「生活綴方」を手がかりに－」，河野一紀さんの「ことばをめぐる論考－心理臨床・分析哲学・記号論を通じて」，佐藤健さんの「子どもの遊びにおける宗教的イメージについて」，松本拓磨さんの「贈り物の心理臨床学的考察－子供の贈り物像から－」。

理学研究科の橋本亜井さんの「１～４歳児の句末助詞「かな」の使用と理解」，原澤牧子さんの「ニホンザルにおけるアカンボウ運搬行動に影響する要因」，松岡絵里子さんの「ニホンザルにおけるオトナオスとコドモの社会関係」。

人間・環境学研究科の加藤花子さんの「日本語の否定呼応表現の意味・機能的研究－「誰も」「何も」に関して－」，MARIYA ABLIZ（マリヤ アブリース）さんの「ウイグル語マルチメディアCALL教材のための予備調査及びその実装」，田中佑一さんの「「地域言語・少数者言語のための欧州憲章」の意義と限界－「地理的区画」を持つ言語と持たない言語の区別を中心に－」。

情報学研究科の椎木崇幸さんの「コミュニケーションの時空分析に関する一考察」，生命科学研究科の新美耕平さんの「生命科学に関するメディア言説

分析の研究～「ヒトES細胞」新聞報道と『万能細胞』の語られ方を事例として～」，医学研究科社会健康医学修士（専門職）の加藤秀子さんの「小学５年生を対象とした喫煙に関する知識・意識・行動についての質問票調査」。

このように，枚挙にいとまがないほど，多様な分野の研究が修士課程の皆さんによって行われ，それが修士論文として発表され，さらにその中のいくつかは引き続き博士課程での研究によって深められていくことでしょう。京都大学はそのような大学院の学生の皆さんが研究に参加する場所を守っていかなければなりません。

今，大学はたいへん厳しい状況に置かれていて，学生を支援する経済的基盤が十分ではありません。しかし，京都大学は，すでに学生を経済的に支援する多くの制度を用意しています。それらを分かりやすく示すように今資料を整えているところです。博士後期課程の学生は研究者としてさまざまの研究に従事します。私は本来それに給料を支給することが必要だと思っています。京都大学は大学の最重点課題として，博士課程の学生を支援し，博士学位を授与された若い研究者たちが安心して研究に従事できるように，研究職のポストを増やしていくことが重要と考え，役員一同，さまざまの面からその具体的方策を検討することを決意しました。

皆さんは，これからさまざまの道を選んで進んで行かれることと思います。すでに従事する職を決めてその準備を始めておられる方もいるでしょう。社会に出て活躍する道を探している方もいるでしょうし，研究者としての道に進む準備をしておられる方もいることでしょう。どのような道を進むにしても，常にこころに余裕を保つことを心がけて，物事を広い眼でみるようにしてほしいと思います。例えば，自然科学の道に進む方には，ときには1300年の歴史を持つ京都の文化に触れてほしいと思います。私たちは科学と文化の融合を大切にしていかなければなりません。

一つの例として，最近出版された小沼通二さんの「湯川秀樹日記，昭和九年：中間子論への道」という本から，湯川秀樹博士の若い頃を見てみたいと思います。この日記はご家族の了解のもとに最近公開された貴重な資料です。湯川さんは27歳の時，1934年11月17日に東京大学の構内で開催された数学物理学会で「核力の中間子論」という論文を発表しました。その論文が後に1949年のノーベル物理学賞の受賞につながるものでした。その発表の前日，16日の午前に湯川さんは理研に行き，午後は銀座へ移動しました。そのときの日記を引用します。「歌舞伎座で盛衰記（五時ー五時五十分，四十銭）。竹葉銀座本店で夕食。勧進帳（六時五十分ー八時，四十五銭）を見てホテルに帰る」とありました。次の日，論文を発表し，「朝永，小林両君に新橋しほ屋の金ぷらを御馳走の筈が馳走になり，七時十分発の急行に乗る。両君見送」と日記にあります。

そこで，私も先日，歌舞伎座に行き，途中の休憩で竹葉亭の鰻を食べに行って，また続きを見て帰ってきました。若い日の湯川さんの行動を体験してみたかったのです。研究者が精神的に豊かな生活を送ることの重要性を皆さんに伝えるために，一度実地に体験してみなければと思って行ったのですが，新幹線で京都へ帰ってまた仕事という，たいへん忙しい日程でした。70年以上の時の流れの中で，現代は忙しい時代になりましたが，やはり大脳がよく働くためには，適当な文化的刺激を脳に与え，あるいは脳に栄養を補給するため美味しい物を食べて，さらなる活躍の基礎を固める生活を皆さんにも心がけていただきたいと思います。

皆さんのこれからの人生では，時に挫折しそうになることもあるでしょうが，失敗を経験すると，人はそれだけ強くなります。目標に向かって，思い切って仕事をする人であってほしいと願います。今日学位を得られた2,464名の皆さんの明日からの活躍の場所は，世界のあらゆる所にあります。皆さんがそれぞれの目的に合った場所を見つけ，学習や研究の成果を生かして活躍してくださることを祈って，私のお祝いのことばとします。

本日はまことにおめでとうございます。

博士学位授与式における総長のことば

平成20年３月24日

総長　尾　池　和　夫

今日，新たに，589名の京都大学博士が生まれました。まことにおめでとうございます。ご列席の，副学長，各研究科長，学舎長，教職員とともに，課程博士526名，論文博士63名のみなさんに，また，参列されたご家族に，こころからお慶び申し上げます。

京都大学の博士は，京都帝国大学の時代に旧制博士学位9,651名があり，これらを総計すると京都大学から授与された博士学位は３万5,902名になりました。

京都大学には，京都大学博士学位論文論題検索システムがあって，京都大学あるいは京都帝国大学から博士の学位を授与された論題が検索できるようになっています。今年１月23日の学位授与式で収録件数は約35,000件になりました。例えばキーワードを「源氏物語」と入れて検索すると４件，「中間子」で検索すると42件，「チンパンジー」では39件を見つけ出します。また，「伊谷純一郎」で検索すると，「野生ニホンザルのコミュニケーションに関する研究」という論文が，1962年２月13日に登録されていることがわかります。

皆さんの今日の博士学位の論文も，世界の人たちの共有財産として国会図書館と京都大学に保存されることになります。もちろん皆さん自身でも，学位論文になった研究の成果を，これからは研究者として，人びとに伝える努力をしていかなければなりません。学問を志した皆さんの努力がみごとに報われて得られた博士学位には，たいへん深い意味があります。皆さんはこの学位によって，研究者として認められると同時に，それぞれの道の専門家として，世界に通用する資格を得たのです。このことをしっかりと自覚して，今後の活動に活かしていただきたいと思います。

京都大学では，今年の４月１日に，「野生動物研究センター」という新しい研究組織を創設します。私が伊谷純一郎さんの「ゴリラとピグミーの森」という

本に出会ったのは，すでに地震学の道に入った直後でしたが，それでも地球を研究する私にとって影響の大きな一冊の本でした。その本を，文藝春秋の「一冊の本が人生を変える」という特集に紹介した山極壽一さんに，先日屋久島のことを現地で教えてもらう機会がありました。山極さんは「サルと歩いた屋久島」という本に「屋久島へやってきて，私ははじめて人間を無視して暮らしているサルたちを見たのだった」と書いています。山極さんがヤクシマザルの研究を始めたのは1970年のころでした。

今年の博士学位論文の審査報告を読んで，やはり京都大学の学問の伝統の中にいると感じるたくさんの論文がありました。その中から，いくつかを選んでくわしく読んでみました。それらの報告をここに引用させていただきます。

理学研究科生物科学専攻の加賀谷美幸さんの学位論文題目は，「真猿類における胸郭の三次元骨格形態の分析」です。真猿類はサル目のうち，高等な猿類の総称です。学位審査の主査は，中務真人准教授です。

現生ヒト上科においては，前肢の運動域が広いこと，直立姿勢に適応的な筋や骨格特徴を数多くもつことが知られており，こうした特徴の獲得過程を明らかにすることが，ヒト上科の進化を解明する重要な鍵となるそうです。一方，類人猿同様に前肢ぶら下がり行動を比較的よく行う新世界ザルのクモザル属では，胸郭形態が現生ヒト上科のものと類似しているという指摘が従来からあったのですが，加賀屋さんの論文の結果はこれを否定して，類人猿の胸郭

の骨格の特徴が，霊長類の中で独特なものであることを示しました。現生のヒト上科における胸郭の特徴がセットとして進化したものではなく，段階を踏みながら個別に現れたことを強く示唆するもので，今後，現生類人猿に特徴的とされていた体幹部の特徴の再検討を促すきっかけになることが予想されると評価されました。

理学研究科生物科学専攻の松浦直毅さんの学位論文題目は,「ガボン南部バボンゴ・ピグミーの社会変容と民族関係に関する人類学的研究」です。主査は山極壽一教授です。

アフリカの狩猟採集民は，平等主義的な社会関係を保ち，近年にいたるまで父系で結ばれた家族からなる小集団で移動生活を送り，近隣の農耕民と密接な関係を保ちつつも，農耕民との間には社会的な格差があると報告されてきました。申請者は，ガボン共和国でバボンゴと呼ばれるピグミー系の狩猟採集民のもとで調査を行い，彼らがすでに農耕に大きく依存した定住生活を送っており，近隣の農耕民と対等な社会関係を築いていることを発見しました。そこで，こうした変化が起こったプロセスを分析し，対等な社会関係が生じた理由について生態人類学的な検討を行いました。これまで聞き込みやアンケートによって調べられていた狩猟採集民と農耕民の社会関係を直接観察によって定量化し，その対等な関係を行動様式から生態人類学的に分析することに成功した論文として高く評価されました。

理学研究科生物科学専攻の木場礼子さんの学位論文題目は,「ニホンザルにおける視覚性弁別課題を用いた性の認知の実験的研究」です。主査は，正高信男教授です。

われわれヒトは，視覚的に，見知らぬ人でも，たとえそれが写真であっても，すばやく，かつ正確に性別を判断することができます。この研究では，ニホンザルを対象に，他の個体の性をどのように識別しているかを検証することを目的に実験が行われました。ヒト以外の霊長類を対象に，同種の他の個体の性別を視覚的に弁別できることを実験的に初めて明らかにした試みが高く評価されました。

理学研究科生物科学専攻のTHAUNG HTIKE（タウン タイ）さんの学位論文題目は,「ミャンマー中部における新第三紀のイノシシとカバの古生物学的解析」です。主査は，髙井正成教授です。

東南アジアのミャンマー国中部の新第三紀の陸成層からは，哺乳類化石が豊富に産出することが19世紀末から知られています。この論文は，これらの哺乳類化石のうち，偶蹄類の仲間であるイノシシ科suidaeとカバ科Hippopotamidaeの新標本を記載し，その形態的変異と進化史について古生物学的に検討したものです。ミャンマーにおける新第三紀の陸棲哺乳類動物相に関して，近隣地域との比較を基に，古生物学的に解析した重要な研究であり，鮮新世以降の同地域の環境変動(乾燥化，草原化)についても考察を加えており，今後の同国の古生物学の発展の先駆けとなる研究であります。

理学研究科生物科学専攻のRIZALDI（リザルディ）さんの学位論文題目は，「ニホンザルの順位獲得および連続攻撃時における行動の調節」です。主査は，渡邊邦夫教授です。

ニホンザル放飼群において，2002年，2003年，2005年生のコザルを対象に，攻撃行動の発達に関する研究を行ったものです。このような社会関係の分析のためには，長期にわたる，辛抱強い集中した観察が必要なだけでなく，多数の要因が絡む複雑な社会関係に目配りした,周到な調査計画が不可欠です。また分析に当たっても，幅広い社会関係の変異に目を向けながら，一つ一つ解きほぐしていく慎重さと根気が求められます。そのような要件を見事に克服してこの論文が完成しました。

これらの他にも，京都大学らしい分野の多くの論文がありました。

文学研究科歴史文化学専攻の村上由美子さんの学位論文題目は,「古代の木材利用に関する考古学的研究－木製品の製作と使用からの読み解き－」です。主査は上原真人教授です。

「木の文化」論の歴史的検証は必ずしも十分ではなく,出土木製品の考古学的検討は1990年代半ば以降,ようやく各地で着手され，以後，急速な発展をみました。出土木製品の研究は，各地域ごとの生態環境のなかで「木の利用」の実態を解明する段階に至りつつあり，村上さんの研究はその最先端に立っていると評価されています。

人間・環境学研究科共生文明学専攻の内藤真帆さんの学位論文題目は,「ツツバ語の記述的研究」です。主査は，三谷恵子教授です。

ツツバ語とは，南太平洋のバヌアツ共和国の島の一つであるツツバ島の現地語であり，内藤さんは2001年から2006年の間に通算20ヶ月にわたって行った現地調査に基づき，音声・音韻，形態，統語の各側面からこの言語を詳細に記述しました。この論文ではじめてツツバ語の全貌が明らかにされました。

同じ専攻のTina Vesselinova Peneva（ティナ ベセリノヴァ ペネワ）さんの学位論文題目は,「現代日本における食肉文化と「和牛」という「創られた伝統」：近江牛の生産と消費についての研究」です。主査は，田中雅一教授です。この論文は，和牛が高価な食材となった歴史的，社会的要因を明らかにすると同時に，それがもつ意味を現代日本社会の文脈において明らかにしようとしているだけでなく，肉食に関わる人々の周縁的位置に注目し，現代日本社会が抱える差別問題，具体的には在日韓国・朝鮮人差別と被差別部落民差別を取り上げて論じています。

同じく共生文明学専攻の山元宣宏さんの学位論文題目は，「秦漢時代の書体の諸相」です。主査は，阿辻哲次教授です。

本学位申請論文は漢字の書体に関する名称のうち「篆書」と「隷書」をとりあげ，それが命名されたことの理由と，その背景に存在する歴史的事実について，近年の出土資料から得られた知見から伝統的な文献を解釈することで考察したものです。漢字の書体をめぐる文字学史研究では，従来ほとんどスポットをあてられてこなかった分野に鋭い考察を展開したものと評価されました。

このように紹介すると果てしなく続くのですが，これらの論文をネットで読むことができるように皆さんの協力を求めることになります。それによって，人類の共有する知的財産になります。皆さんもさまざまの分野の論文を読んでみてほしいと思います。異なる分野の研究成果が，幅広く京都大学に蓄積され，それらがまた融合して新しい研究の芽を出します。今日博士学位を取得された皆さんも，積極的に異なる分野の人と接して，大きく発展する機会を見つけてください。皆さんのさらなる活躍が，人類の福祉に貢献することを祈りつつ，博士学位のお祝いのことばといたします。

新しい京都大学博士の皆さん，まことにおめでとうございます。

大学の動き

平成19年度卒業式

3月25日（火）午前10時から，総合体育館において名誉教授をはじめ各副学長，各部局長等の出席のもとに平成19年度卒業式が挙行された。学歌斉唱の後，尾池和夫総長が各学部代表に学位記を授与した。

続いて総長の式辞があり，最後に全員で「蛍の光」を合唱して，午前10時45分に終了した。

新学士は計2,777人であり，学部別では総合人間学部130人，文学部229人，教育学部68人，法学部313人，経済学部275人，理学部280人，医学部（医学）97人，医学部（人間健康科学）122人，薬学部89人，工学部880人，農学部294人であった。

平成19年度修士学位・修士(専門職)学位・法務博士(専門職)学位授与式

3月24日(月)午前10時から，総合体育館において沢田敏男元総長，長尾真前総長，名誉教授をはじめ各副学長，各部局長等の出席のもとに平成19年度修士学位・修士(専門職)学位・法務博士(専門職)学位授与式が挙行された。尾池和夫総長が各研究科，学舎，教育部代表に学位記を授与し，続いて総長の式辞があり，午前10時40分に終了した。

今年度は公共政策教育部，経営管理教育部の修了者に初めての学位を授与した。

修士課程修了者は，文学99人，教育学41人，法学15人，経済学39人，理学307人，医科学20人，薬学81人，工学682人，農学294人，人間・環境学146人，エネルギー科学109人，地域研究14人，情報学181人，生命科学93人，地球環境学26人の計2,147人で，専門職学位課程修了者は，社会健康医学32人，公共政策35人，経営学60人，法務博士190人であった。

博士学位授与式

3月24日(月)午後1時から，総合体育館において，尾池和夫総長，東山紘久理事・副学長(教育・学生担当)をはじめ，各研究科長・学舎長出席のもと，博士学位授与式が挙行された。

総長から，各授与者に対し学位記(3月24日付)が手渡された後，総長の式辞があり，午後2時40分終了した。

各分野別内訳は次のとおりである。

学　　位	課程博士	論文博士	計	学　　位	課程博士	論文博士	計
博士(文学)	32	5	37	博士(工学)	84	14	98
博士(教育学)	1	3	4	博士(農学)	53	16	69
博士(法学)	10	2	12	博士(人間・環境学)	38	3	41
博士(経済学)	20	2	22	博士(エネルギー科学)	9	1	10
博士(理学)	100	4	104	博士(地域研究)	16	−	16
博士(医学)	77	10	87	博士(情報学)	30	1	31
博士(医科学)	4	−	4	博士(生命科学)	12	−	12
博士(社会健康医学)	1	−	1	博士(地球環境学)	9	−	9
博士(薬学)	30	2	32	計	526	63	589

ご意見・ご感想をお寄せください。
京都大学広報センター　〒606-8501　京都市左京区吉田本町　E-mail：kohho52@mail.adm.kyoto-u.ac.jp